

NPO法人 竹の学校

■歩み 「特定非営利活動法人 竹の学校」は2008年7月に認定されました。そこまでに前史があります。放置竹林の激増が問題化した2000年(平成12年)に、「まちこん(まちづくり市民懇談会)竹林部会」に杉谷が参加し、つづいて高田、野本が参加したことに始まります。まちこんが解散したので、「長岡京市竹林友の会」を結成し、現在の「NPO法人竹の学校」に改組しました。最初は奥海印寺の放置竹林でしたが、そこは高速道用地になり、現在の場所(裏表紙参照)になったのは2004年(平成16年)のことです。

■NPO法人竹の学校の目的は

- (1) 放置竹林の繁殖がひきおこす植物生態系の乱れを防ぎ、かつ水資源の涵養をはかります。
- (2) 衰微しつつあるタケノコ栽培技術を保存すること、すなわち乙訓の伝統的な農業文化の継承です。
- (3) 竹の文化を創りだすこと。昔は竹を使って籠などもろもろの用具を作る生活文化がありました。今はほぼ消えました。これからは竹林に人が集まることによって新しい文化を創りだそうということです。

● 目的を詳述します。

- (1) は間伐・整備することによって、井戸水をつくり、地球温暖化をもたらす温室効果ガス(主にCO₂)を吸収する力の強い、竹林にすることです。それはCO₂排出をカーボンオフセットする対象にもなるでしょう。
- (2) は最高級品のタケノコ生産します。シロコづくりにも取り組みます。京都式軟化栽培法は重労働ですが、これを実践します。また竹林はシイタケ栽培に最適環境なので原木栽培もしています。(竹の利活用の新分野としては、水質を浄化させる竹炭、チップにして肥料化、バイオエタノール燃料も追求します。)
- (3) は市民が竹林のそよぎの中でコンサートを楽しむこと、花壇作り、竹工芸にいそしむことなど。それらに参加することによって人に共感が生まれ、それが環境保全活動に移行することが期待されます。ほかに竹のシンポジウム、子どもたちのための環境教育活動、竹林で健康増進・癒し(セラピー効果)をはかります。こうした企画を通して他団体との連携や国際活動も志向しています。

■会員数・活動場所

2010年6月現在、会員は30名です。長岡京市民21名と他から9名の参加があり、毎週水曜と土曜の午前中を働きます。(繁忙期の4月、12月は月曜午前もあります。)

活動場所はバス停「光風台住宅前」から南へ徒歩2分、長法稲荷神社の周辺一帯で、現在、A濁り谷池(4000㎡)、B南原(3000㎡)、C濁り谷池(1000㎡)の3箇所で作業しています。(文責 杉谷)

エコツアー —タケノコと竹炭—



●タケノコ掘りは、まず放置竹林と環境問題の話聞いてから。



●欧米人はタケノコ掘りをしたことがない。



●炭焼きは2日かかり